

練習課題3 小規模なリゾートホテル

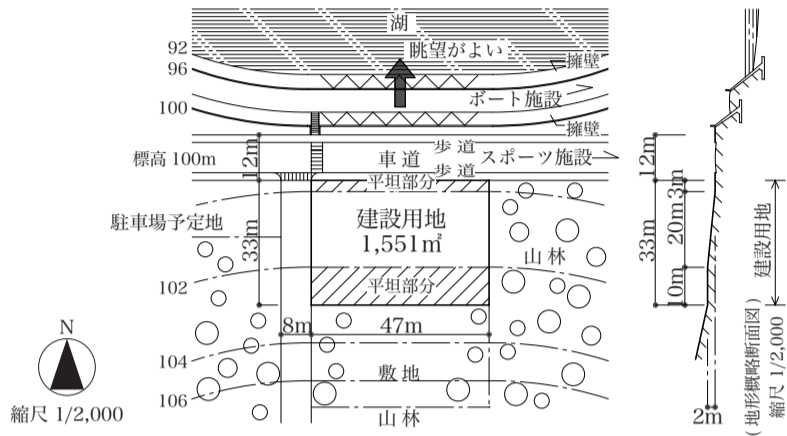
I. 設計条件

この課題は、ある地方都市近郊の人造湖を臨む景勝地において、本施設及び近隣の施設等を利用しながら、スポーツ、散歩及びリラクゼーションを享受するための滞在型リゾートホテルを計画するものである。

本施設は湖の良好な景観を取り入れるとともに、建築敷地内の高低差を有効に活用するものとする。また、計画に当たっては、環境負荷低減のため、自然エネルギーを利用し、快適な室内環境が得られるような設計手法（パッシブデザイン）を、積極的に取り入れるものとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 建設用地の北側平坦部分と道路、南側平坦部分と所有敷地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 建設用地は、都市計画区域及び準都市計画区域外の区域内にあるが、景観保全ため主要な屋根は2/10以上の勾配屋根とする。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤の状況は、次のとおりである。
 - 表土（地表から-1.5mまで）直下の地層はN値0～5のシルト層（地表から-1.5m～-7m）である。
 - 岩盤の深度は地表から-7mである。
- 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造、階数等
構造種別は自由とし、地下1階、地上2階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計
床面積の合計は、2,200㎡以上、2,600㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しないものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	設置階	室名	特記事項	床面積
・宿泊客の定員は38名とし、各宿泊室にはバルコニーを設け、全て湖を臨む配置とする。 ・リラクゼーション部門各室の利用は宿泊客のみに限定する。 ・地下1階のいずれかに3層に渡る吹抜け40㎡以上を設ける。				
宿泊部門	1階又は2階	宿泊室A (全5室)	・ベッド×4、浴室、洗面、便所、談話スペース、ミニキッチン、ライティングテーブル、収納等を設ける。	各約50㎡ 計約250㎡
		宿泊室B (全8室)	・ベッド×2、浴室、洗面、便所、談話スペース、ミニキッチン、ライティングテーブル、収納等を設ける。	各約25㎡ 計約200㎡
		宿泊室C	・車椅子利用者用とする。 ・ベッド×2、浴室、洗面、便所、ミニキッチン、ライティングテーブル、収納等を設ける。	適宜
		談話コーナー コインランドリー 自販機コーナー	・20人程度が利用できるソファークッションを設ける。 ・分割配置としてもよい	
リラクゼーション部門	1階又は2階	大浴室	・男性用、女性用として、それぞれ8人程度が利用できるようにする。 ・脱衣室にはロッカー、洗面コーナー、便所を設ける。	各約70㎡ 計約140㎡
		休憩コーナー	・大浴室利用後の休憩に15人程度が利用できる。 ・自販機を設ける。	適宜
		食堂	・宿泊客全員が朝食、夕食の際利用できるよう椅子、テーブル、ビュッフェコーナー等を設ける。	
		パントリー	・食堂へのサービス、配膳に従業員が利用する。	約70㎡
		リラクゼーションルーム	・マッサージ、エステ、エアロビ等多目的に利用する。	
		事務室	・4人分の事務スペースを確保する。	
共用・管理部門	地下1階又は1階	仮眠室	・事務室と行き来できる。 ・ベッド及び便所を設ける。	適宜
		支配人室		
		従業員控室		
		従業員更衣室	・男性用、女性用として2室設ける。	
		エントランスホール	・風除室を設ける。	
	地下1階	レストラン	・50人程度が利用できるよう椅子、テーブル、レジ等を設ける。 ・外部からも出入りできる。 ・厨房（食堂、広間での料理を担うものとする。）を設ける。	約30㎡
		広間（和室）	・畳20畳以上とし、床の間、押入、専用のパントリーを設ける。	
		待合ラウンジ	・10人程度がくつろげるよう、ソファークッション、新聞・雑誌用の書架を設ける。	
		フロント	・受付カウンターを設ける。	
		スーベニアショップ	・みやげ物、地域の特産品等を販売する。	
設備スペース（設置階は適宜） ・採用した設備計画に応じて、設備機械室（空調、給湯・給排水衛生、電気、消火等）、屋外機器置場等を計画する。				
・便所、エレベーター、リネン庫、ごみ庫、倉庫及び通用口については、適切に計画する。 ・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。				

3. その他の施設等

- 露天風呂は次のとおりとする。
 - 地下1階又は1階の屋上に設けるものとし、男性用、女性用としてそれぞれ20㎡以上とする。
 - 大浴室から行き来できるものとし、ベンチ等を設ける。
- 駐車場は、車椅子利用者用として1台分、サービス用として1台分、送迎車用（3.5m×6m）として1台分を設ける。なお、利用者用及び従業員用の一般車等の駐車場については、建設用地西側の駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- さまざまな天候に配慮した車寄せを設ける。
- (1)～(3)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物は特別特定建築物としてバリアフリー法の円滑化誘導基準に配慮する。
 - 宿泊部門、リラクゼーション部門及び共用・管理部門を利用者に応じて適切にゾーニングし、明快な動線計画とするとともに、避難等に配慮する。
 - 自然採光及び自然通風を積極的に取り入れる計画とするとともに、日射の遮蔽に配慮する。
 - 敷地の周辺環境に配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
 - 構造種別、架構形式及びスパン割りを適切に計画する。
 - 斜面地を考慮した建築物の耐震性に配慮する。
 - 地盤状況に配慮し、基礎方式を適切に計画する。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - 空調設備、給湯・給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設けるとともに、環境負荷低減に配慮する。なお宿泊室の空調方式はダクト併用ファンコイル方式とする。
 - 太陽熱、地中熱、井水、植栽等を利用するなどし、環境負荷低減に配慮する。

II. 要求図書

答案用紙I及び答案用紙IIの定められた枠内（寸法線については枠外でもよい。）に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面（答案用紙Iに記入）

下表により、所定の図面を作成し（フリーハンドでもよい。）、必要な事項を記入する。なお、各図面には、計画上留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示してもよい。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階（又は地下1階）平面兼配置図 1/200	① 1階平面図は建設用地南側の配置図を兼ねるものとする。 ② 地下1階平面図は建設用地北側の配置図を兼ねるものとする。 ③ 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ．建築物の主要寸法（スパン割り及び床面積の計算に必要な程度） ロ．室名等（宿泊室A、B及びCの表示は、ト、チ、リによる。） ハ．要求室の床面積 ニ．設備シャフト〔パイプシャフト（PS）、ダクトスペース（DS）、電気シャフト（EPS）〕の位置 ホ．設備計画に応じた設備スペース ヘ．断面図の切断位置 ト．要宿泊室Aの室名（A1～A5） チ．宿泊室Bの室名（B1～B8） リ．宿泊室Cの室名C ヌ．代表的宿泊室A、宿泊室B及び宿泊室Cの室内プラン ル．要求室の特記事項に記載されている室、スペース、什器等 ヲ．露天風呂の位置
(2) 地下1階平面図 1/200	④ 平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ．建築物の出入口 ロ．駐車場（台数及び出入口を明示する。）及び車寄せ ハ．ドライエリアの位置（ある場合のみ） ニ．通路、植栽等
(3) 1階平面図 1/200	⑤ 1階平面図には、地下1階の屋根、ひさし等となる部分を図示又は記入する。
(4) 2階平面図 1/200	⑥ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ．居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路、それらの距離及び重複区間の距離 ロ．1階の屋根、ひさしとなる部分 ハ．2階の屋根形状（軒先、棟等を一点鎖線で図示する。）
(4) 断面図 1/200	① 切断位置は、3層に及ぶ吹抜けを含む南北方向とし、建築物の立体構成及び勾配屋根の形状がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 前面道路（標高100m）をGLとした建築物の高さ、階高、天井高、地下1階の床高、主要な室名を記入する。 ④ 基礎、梁及びスラブの断面を図示する。

2. 面積表（答案用紙Iに記入）

地下1階～地上2階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等（答案用紙IIに記入）

- 建築計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 建築物へのアプローチ及び車寄せ、駐車場等の配置について工夫したこと
 - 宿泊部門のゾーニング計画及び動線計画について工夫したこと
 - 建築物内部において車椅子利用者、高齢者が利用する観点から工夫したこと
- 構造計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 建築物に採用した構造種別、架構形式とこれらを採用した理由
 - 勾配屋根の架構計画について、その特徴及び特に工夫したこと
 - 斜面地における基礎計画について工夫したこと
- 設備計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 各宿泊室の空調方式において工夫したこと
 - 環境負荷低減手法として、「太陽熱」、「地中熱」、「井水」のうちから2つ選択し、これらの利用方法及びその省エネルギー効果について考慮したこと